第 2012-05 号

恵みと真理のニュース

2012 年 3 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　足を治して下さって、勧士の務めに耐える恵みを与えて下さったことに感謝します。

私は神様を信じない家庭で生まれ育てられました。そして旦那も神様を信じない人と出会い結婚しました。息子と娘が生まれて私は頑張るつもりでいましたが、子どもたちは幼いごろからいろんな病気でいつも大変でした。私と旦那も体調を崩すときが多く、生活はどんどん疲れてきました。それに、心はいつも寂しく、満足感も喜びもありませんでした。
長男が小学校に通っていたとき、前近所に住んでいた恵みと真理教会の執事さんが伝道しに私の家まで訪ねて来ました。当時、娘が激しい耳下腺で顔がとてもはれていました。執事さんは“子どもたちのために祈ってあげる。”と言いました。普通だったら断るはずでしたが、激しい耳下腺で病院に行ってもなかなか治らなかったし、その日は症状がもっとひどかったので断りませんでした。執事さんが祈ってくれた後、娘は“お母さん、先のおばさんが祈ってくれて今はもう痛くないよう。”と言いました。その執事さんが帰った後、嘘のように治っていました。娘の病気が治ったことによって生きておられる、全能なる神様に対する信仰ができました。それで1982年、私は恵みと真理教会へ通うことになりました。当時はよくわかりませんでしたが、神様が先に私を選んで下さり、呼んで下さったその恵みを考えると自然に心から感謝の告白がでてきて、声をあげて賛美をするようになります
その後、私と子どもたちは神様の助けと導きの中で頑張って信仰生活をしました。旦那の迫害もありました。しかし、当会長チョ牧師先生のメッセージがとても大きな慰めになり、それが能力になりました。神様は子どもたちの信仰をもっと固くして下さって一緒に祈りながらいろんな大変なことを打ち勝つことができるようにして下さいました。当会長牧師先生はある日のメッセージで「主の中で、豊かで幸せな聖徒の人生」について語りました。“主は私の羊飼い。私は、乏しいことがありません。”（詩篇23）の御言葉が自分の信仰と感謝の告白になれ、という御言葉を与えて下さったので、これを守るために頑張りました。子どもたちも従順して、学校行く前にこの御言葉を必ず読みました。そうやって信仰生活10年目になったときダヴィデ一から。다윗が一日に七回賛美したという御言葉を思い出して讃美歌を最初がら一日に七章ずつ歌いました。よくわからない曲でも祈る心と信仰告白を含めた賛美をしました。いつのまにか、15年が過ぎました。そうやって賛美をしながら毎日信仰の胆力と勇気ができました。外で頑張って伝道したら、伝道の実が結ばれることをたくさん体験しました。
しかし、年をとってきたら何年か前から足が痛くなりました。病院で診察を受けたら、膝の軟骨がなくなり薄くなっているものが破けられたということでした。レーザー施術を受けて何年間は薬を飲まないといけないということでした。
2010年12月病院へ行きました。医者は“もう薬では耐えられません。手術をした方がいいと思います。”と言いました。2011年1月に手術を受けました。診療を受けて手術室に入いりながらも続けて言い出しました。“主は私の羊飼い。”、“私が主の中にいる。主が私の中におられる。”とずっと続けて告白し、20曲以上の賛美の歌詞とリズムを思い出しながら口で、心で歌いました。手術が終わってとても激しい痛みがありました。牧師先生の御言葉を思い出しながら“神様、とても痛いです。”という言葉の代わりに癒しを確信する信仰で“神様感謝します。アーメン。”と言いました。少し痛くなったらゆっくり、激しくなったらすぐ“アーメン”と言いました。また、癒しに関する御言葉を思い出しながら黙想しました。
1年間足の筋肉運動を続けました。リハビリをしましたが、疲れたときでも礼拝には頑張って参加しようとしました。すると、当会長チョ牧師先生のメッセージはまるで私への御言葉であり、神様の声のように聞こえて、とても大きな慰めになりました。それに、祈りは治療への確信を与えてくれました。区域聖徒たちも心を一つにして一緒に祈ってくれました。膝を曲げるとき、階段を上るときのその痛みを我慢しながら“神様、治して下さって感謝します。アーメン。”と数えられないぐらい言い続けました。そして、リビングで1人で歩く練習をするときには家族の名前を一人ずつ呼びながら“神は誰の飼い主？”と言い出しながら一生懸命に賛美をしました。神様を見つめると、神様は痛みに耐えられるようにして下さり、新しい力を与えて下さったため痛みに打ち勝つことができました。そして今、“前のように歩けるか、どうかわかりません。”と言っていた医者の話とは逆に、私は完全に回復しました。教会の階段も一人で上手く上がったり、下りたりしることができてやっと大聖展で捧げる礼拝の喜びと感激を再び味わうことができました。勧士のカバンを持って、前みたいに活発に教会に行って礼拝を捧げました。そして、帰ってからは伝道をしたり、訪問をすることができるだけで、とても楽しくて幸せです。今は、旦那もイエス様を信じるようになりました。子どもたちはもちろん、孫たちもそれぞれの恵みと賜物によって、区域長として、聖歌員としてまた、教会学校の先生として頑張って教会を仕えています。この世でこれ以上うらやましいことはありません。神様は私を治して下さり、再び礼拝と奉仕の喜びを味わうことができるようにして下さいました。私の家族みんなにも限りない救いの恵みを与えて下さる神様に感謝と賛美と栄光を捧げます。

［信仰コラム］　心の目が開かれるために祈りなさい。

“どうか、私たちの主イエスキリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け続くものがどのように栄光に富んだものか、また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。”（エペソ1：17-19）

我々は自然と人、事件の中で沁みこまれている神様の愛と権力、知恵を知り、それを分別するために頑張らなければいけません。また心の目が開かれ、清い認識能力と分別力を得るために神様に祈るべきです。このような認識と分別は、幸せな心、大胆な心への期待感が溢れるようにしてくれます。
御霊な認識と分別力は知恵と啓示の霊である精霊様によるものです。父になる神様が精霊によって、私たちの心の目を開いて下さって、それを悟るようになることにつにて、本文の記録を調べます。

第一、神様を知ることができます。神様の啓示の方法には大きく分けて三つあります。一番目は、神様が造った万物をとおして啓示します。二番目、奇跡を体験することによって神様がおられることを啓示する場合もあります。三番目、聖書をとおして自分を啓示します。神様の本質と属性が聖書に啓示されています。そして、イエスキリストをとおし完全に現しました。神様は万有を創造し、万有を治める方です。罪人を救います。世の中の終わりの日に堕落した天使たちと罪を犯した人々を審判して、火と硫黄の池へ入れられます。

第二、神様の御呼びの希望についてわかることができます。キリスト人は神様の御呼びを受けた者であり、その御呼びに従う希望をもっています。それは苦難が変わって、祝福になる希望です。迫害が変わって昇給になる希望です。主の働きのため一生懸命に頑張ったことが無駄にならないようになる希望です。死の中にも希望があります。肉身の幕屋が崩れると霊は天使たちに連れ去り、天国に入ってイエス様が再臨する日に肉体は復活するようになります。

第三、聖徒の中で、その相続地の栄光の豊かさを知ることができます。‘聖徒の中で’という表現は‘聖徒たちと共に’という意味です。‘その相続地’とは、聖徒たちは神様の子どもであり天国の市民です。そのために、これよりもっと偉い身分や地位はありません。この世で、いくら偉い身分や地位をもっているとしても神様の子どもである身分と比べることはできません。

第四、神の全能の力の働きによって私たち、信じる者に働く神のすぐれた力がどれだけ偉大なものであるか、に対して知ることができます。私たちに与えて下さった神の大いなる能力は、サダンを迎えて戦う能力です。イエスキリストを信じる者が大胆に戦うとサダンが後退します。そして、迫害と惑わす、苦難、誘惑から打ち勝つことができる能力です。また、弱い者を完全なる者として下さる能力です。

御霊なことは、人がもっている手段と方法でその実状を知ることができません。心の目が開かれるべきです。人の心は物を理解して、感じて、考えるところです。しかし、働く聖霊様が心におられないと、御霊なことを認識することができなくなり、分別することもできません。したがって、聖霊様がみなさんの心の目を開いて下さることを信じて祈って下さい。そうすると神様をもっと深く知り、その御呼びの希望はなんなのか、聖徒たちが一緒に味わうべき、その相続地の栄光の豊かさはなんなのか、信じる私たちに与えて下さった神様の能力の大きさがどれぐらいなのか、日が経つほどこれについてたくさん知ることができるよう、お願いします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

一番有害な欠乏

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

モーセに導かれほとんど２００万人を超えるイスラエル子孫たちがエジプトから離れました。ですが、その中で二十歳以上の何人かを除いて皆荒れ野で死んでしまいました。
彼らは乳と蜜に溢れるカナンへ行こうと出発しましたが、その地には入れなくて死にました。私たちはその理由を確実に分からなければなりません。なぜならば、天国へ向かって進んでいる私たちにとってほんとうに貴重な教訓になるからです。
コリント一書10章11節には**「これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです」**（コリント一書10：11）としました。
旧約聖書民数記１４章にその理由が記された。**『私の栄光、私がエジプトの荒れ野で行ったしるしを見ながら、十度も私の試み、私の声に聞き従わない者はだれ一人として、私が彼らの先祖たちに誓った土地を見ることはない』**（民１４：２２−２３）としました。
新約聖書ヘブライ３章に**「いったいだれが、神の声を聞いたのに、反抗したのか。モーセを指導者としてエジプトを出たすべての者ではなかったか。いったいだれに対して、神は四十年間憤られたのか。罪を犯して、死骸を荒れ野にさらした者に対してではなかったか。いったいだれに対して、御自分の安息にあずからせはしないと、誓われたのか。従わなかった者に対してではなかったか。このようにして、彼らが安息にあずかることができなかったのは、不信仰のせいであったことがわたしたちに分かるのです。」**（ヘブライ３：１６−１９）としました。
結局、イスラエルの子孫たちの信仰と従順の欠乏が荒れ野で捨てられ絶滅した原因でした。彼らの信仰と従順の欠乏は恨みと不平で現れています。
本日の民数記１４章２２節に１０回も指摘された事件を調べて見ましょう。

第一、紅海辺に宿営を張った時、エジプトの軍隊に追撃されたことです。

エジプトから離れたイスラエルの子孫はどうしようも無い危機に直面しました。彼らの目前には紅海が横たわっていました。
イスラエルの人々は慌てて恨み、不平を言いました。この時、モーセは神が前以て話したみ言葉を想起して叫びました。**『恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。あなたたちは今日、エジプト人を見ているが、もう二度と、永久に彼らを見ることはない。』**（出１４：１３）
イスラエルの人々が不安で恨んだのは神のみ言葉に対する信仰の欠乏から及んだのでした。

第二、シュルの荒れ野のマラであった事件です。

イスラエルの人々は紅海の底の乾いた所を歩いて行きました。彼らの後を追って紅海に入ったファラオの全軍を海の水が襲い、一人も残らず死んでしまった。絶対絶命の危機で奇跡的に救われたイスラエルの人々は感激して神を賛美しました。
そして彼らはシュルの荒れ野に向かって、荒れ野を三日の間進んだが、水を得なかった。人々が水溜りを見つかり、喜んで走り水を飲みましたが吐き出しました。そこの水は苦くて飲むことができなかった。民たちはモーセを恨みました。モーセが主に向かって叫ぶと、主は彼に一本の木を示された。その木を水に投げ込むと、水は甘くなった。彼らは恨んだのは神様の能力への信仰が欠けていたからでした。

第三、シン荒れ野であった事件です。

イスラエルの人々の共同体全体はエリムを出発し、エリムとシナイとの間にあるシンの荒れ野に向かった。イスラエルの人々の共同体全体はモーセとアロンに向かって不平を述べ立てた。**『神様は、天からパンを降らせる。民は出て行って、毎日必要な分だけ集める。わたしは、彼らがわたしの指示どおりにするかどうかを試す。主が命じられたことは次のことです。あなたたちはそれぞれ必要な分だけを取ること。ですが、だれもそれを、翌朝まで残しておいてはならない』**と言ったが、彼らはモーセに聞き従わず、また、**『今日はそれを食べなさい。今日は主の安息日である。今日は何も野に見つからないであろう。あなたたちは六日間集めた。七日目は安息日だから野には何もないであろう。』**
七日目になって、民のうちの何人かが集めに出て行ったが、何も見つからなかった。
彼らを荒れ野で導き飢え死に致すと恨んだのと守るべきの事項を不従順したのは信仰が欠けているからでした。

第四、レフィディムでのことです。

イスラエルの人々は飲み水がなかったので、モーセを恨み、神を試みした。**「見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる。」モーセは、イスラエルの長老たちの目の前でそのとおりにした。**と言われそのとおりに行いました。イスラエルの子孫がモーセを恨み、神様を試したのは神様への信仰が欠けていたからです。

第五、人々が雄牛の金像を造って崇拝したことです。

モーセが神様に呼ばれ、シナイ山へ上りました。モーセが山からなかなか下りて来ないのを見て、民は全員、着けていた金の耳輪をはずし彼はそれを受け取ると、のみで型を作り、若い雄牛の金像を造って崇拝しました。これによって神様は怒り、イスラエルを絶滅させようとしましたが、モーセが切に叫ぶのを聞いて主は御自身の民にくだすと告げられた災いを思い直された。イスラエルの人々のこのような行動は神様への従順が欠けているからです。

第六、タブエラであった事件です。

イスラエル民が主の耳に達するほど、激しく不満を言った。主はそれを聞いて憤られ、主の火が彼らに対して燃え上がり、宿営を端から焼き尽くそうとした。（民数記１１；１−３）
モーセが主に祈ると、火は鎮まった。神様に悪口で恨んだのは神様の導きへの従順と信仰が欠けていたからでした。

第七、キブロト.ハタアワ（貪欲の墓）であった事件です。

イスラエルの人々は**『マナばかりで、肉もない』**と不満を言った。神はうずらを飛ばしイスラエル人々の幕屋の四方へ落してくれました。また、供に災いを下し民たちを打ちました。
マナに対して感謝せず、むしろ神様を恨んだのは神への信仰が欠けているからでした。

第八、ハラン荒れ野のカデシュ.バルネアであった事件です。

イスラエルの民たちがついにカナンに近づいて、モーセは１２人の探りの人々をカナンへ遣わしました。彼らは、四十日の後、彼らは土地の偵察から帰って来た。ヨシュアとカレブを除いた１０人は彼らが偵察した地を悪評して否定的な報告をしました。その報告を聞いた民たちは気を下ろし、共同体全体は声をあげて叫び、民は夜通し泣き言を言った。しかし、ヨシュアとカレブが民たちの決心を変えようと頑張ったが、むしろ民たちはヨシュアとカレブを石で打って殺そうとしました。神は偵察の１０人を殺しました。それに民たちを３８年の間を荒れ野で放浪生活をさせました。その結果、エジプトから離れる当時２０歳以上の大人の中でヨシュアとカレブ以外はカナンへ入らなくて死にました。このような悲劇は神様への従順と信仰が欠けているからでした。

第九、モーセとアロンへ与えられた神様への権威に対抗した事件です。

反逆の主動者はコラ,ダタンとアビラムです。彼らはリーダだちの中で影響力のある２５０人を参加させ同調者にしました。彼らはモーセとアロンの指導権へ対抗しました。この反逆事件は神様の介入で鎮圧されました。コラ,ダタンとアビラムが立っていた地は口を開き、彼らとコラの仲間たちを生きたまま呑み込みました。また火が主のもとから出て、香をささげた二百五十人を焼き尽くしました。これに抗議した彼らを従っていた人の間に疫病が広がり始めて、４７００人が死んでしまいました。反逆者たちには神様によって任せられた権威を尊重し、従順する行いが欠乏していました。

十番目、炎の蛇に噛まれて死んでしまった事件です。

砂漠にあるファラオの荒れ野を通過するときイスラエルの民たちが荒い道でつらかっで食べ物と水により神とモーセに逆らって言いました。主は炎の蛇を民に向かって送られた。蛇は民をかみ、イスラエルの民の中から多くの死者が出た。民はモーセのもとに来て言った。**「わたしたちは主とあなたを非難して、罪を犯しました。主に祈って、わたしたちから蛇を取り除いてください。」**モーセは民のために主に祈った。
モーセは民のために主に祈った。
主はモーセに言われた。**「あなたは炎の蛇を造り、旗竿の先に掲げよ。蛇にかまれた者がそれを見上げれば、命を得る。」**
モーセは青銅で一つの蛇を造り、旗竿の先に掲げた。蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぐと、命を得た。人々は道が険しいと恨み、食べ物や水によって恨んだのは神様への信仰に欠けているからです。神が彼らに求めたのはただ信仰と従順だけでした。神様のみ言葉への信仰と従順だけです。神様のみ言葉への信仰と従順の欠乏よりもっと悪い欠乏はありません。
神様のみ言葉への信仰と従順さえあれば、他の欠乏は神様が最善の方法で解決してくださいます。
神様のみ言葉に対して信仰と従順で生きている人々には必ず表われる現状があります。これは常に神様へ感謝する態度です。常に神様に感謝すれば信仰や従順ができます。
信仰や従順の欠乏は感謝の欠乏と関係あるのが分かります。
私たちの生涯にどういう欠乏が悪い欠乏であるのかといえば、一番悪い欠乏は神様への信仰の欠乏、従順の欠乏それに感謝の欠乏です。
愛する皆さんは自分に神様への信仰、従順、感謝の欠乏がないのではないかいつも調べて見てください。それで常に信仰や従順、感謝が生活の中で満ち溢れるのを祝福致します。アーメン